第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | 環境配慮型コンクリート（材料）

環境配慮型コンクリート（材料）7

座長:岩下健太郎(土木),椛山健二(建築)
2024年6月28日(金) 13:15 〜 15:00 第2会場 (小展示室B)

[1259]ブルーインフラの構築に向けた低炭素型コンクリート藻場ブロックの適用

鈴木南都[1], 西脇智哉[1], 北辻政文[2] (1.東北大学 2.宮城大学)

キーワード：ブルーインフラ、磯やけ、コンクリート藻場ブロック、低炭素、産業副産物

国土交通省が主導するブルーインフラ構築の試験適用として，ジオポリマーコンクリートおよびセメント使用量を極力抑えた低炭素型セメントコンクリートを用いて藻場ブロックを作製し，山形県酒田市酒田港の海中に設置した。また，フレッシュ性状や圧縮強度などの試験や CO_2排出量の試算を行った。藻場ブロックを普通ポルトランドセメントのみを用いたコンクリートで作製した場合，カーボンニュートラルの達成に約14年が必要だが，ここで用いた低炭素コンクリートブロックの場合には，約2~3年で達成可能であると試算された。すなわち，ブルーカーボン生態系の保全・再生・創出に大きく貢献できることが期待される。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会